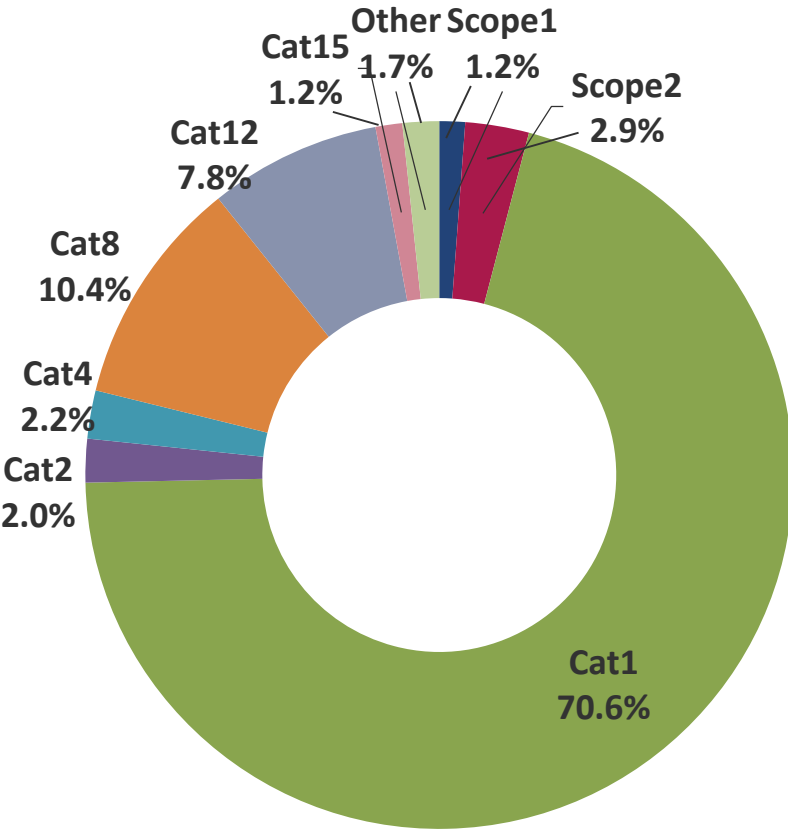


ミズノ株式会社

項目	内容
1.企業情報	<ul style="list-style-type: none">● 業種：その他製造● 事業概要：スポーツ品の製造及び販売● 事業規模：売上高1,781億円 従業員数 4,442名 (2019年3月期)
2.削減目標案	<p><Scope 1・2 の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>目標：2030年に2018年比で30%削減 (2018年度を基準年に設定)</p> <ul style="list-style-type: none">● 高効率な省エネ設備への転換● 再生可能エネルギーの積極的な導入 <p><Scope 3 の削減目標と削減に向けた取り組み></p> <p>目標：カテゴリ1を対象として検討中。</p> <ul style="list-style-type: none">● CO2排出量の少ない材料調達● 省エネ、省資源が可能な製品の設計および生産プロセスの推進

ミズノ株式会社

項目	内容	
3.基準年のGHGインベントリ[数値は任意]	<ul style="list-style-type: none"> ● Scope 1・2・3の排出量の状況  <p>※海外グループは未算定のカテゴリもあり可能なもののみを含めた参考値となります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE1 : [tCO2] 4,046
		<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE2 : [tCO2] 10,024
		<ul style="list-style-type: none"> ● SCOPE3 : [tCO2] 330,567 <p>目標はカテゴリ1を対象として検討中</p>

ミズノ株式会社

項目	内容
4.気候変動によるリスクと機会の分析	<ul style="list-style-type: none">● 天然皮革、天然樹脂、木材、金属及び石油製品などを原材料として使用しているため、異常気象等で原材料に対する影響、調達コスト増の可能性がある。● 自然災害により、販売・生産拠点への影響、物流の麻痺などにより操業への影響が考えられ、機会損失の懸念がある。● 市場で省エネ設備や再エネの導入が増えることによって、価格競争が起こり、設備やエネルギーの調達コストが削減できる可能性がある。
5.削減目標設定の背景・目的・期待する効果など	<ul style="list-style-type: none">● 2016年度に策定した長期環境目標をSBTに整合した水準に再設定することで、妥当性の高い目標を策定する。● Scope3の目標を掲げることで、商品設計や生産技術のイノベーションを促進させ、バリューチェーン全体での活動となることを期待する。● これらの活動を通じて、社内外のステークホルダーからの信頼性および価値向上を期待している。

ミズノ株式会社

項目	内容
6.目標設定のプロセスと社内の議論	<ul style="list-style-type: none">● CSR部門から役員を含む全社の環境活動を統括する委員会にSBTの説明を行い、本支援事業への参加を承認。● 商品開発部門からは目標実現性についての議論があり、バックキャスト手法による目標設定と、それによる技術革新の促進について理解していただいた。● 本支援事業において得られた知見を元に今後具体的な目標設定と取り組みを商品開発部門と討議していく。
7.今後の課題	<ul style="list-style-type: none">● Scope3におけるCO2排出量をグローバルで把握すること。● 目標を実現していくために、妥当な排出係数を選定すること。